



2021年、令和3年が始まりました。約1年前からはやり始めた新型コロナウイルスによる感染拡大防止のため日本全国で様々な行事や人の行き来が制限される年末年始でしたが、真鍋中学校4人の生徒は元気に新年を迎えることができました。健康に過ごせることのありがたさをあらためて感じる新年です。

12月23日(木) **高齢者宅訪問**を行いました。毎年、真鍋島在住の高齢者(本年度は90歳以上)の方のお宅に訪問し、交流している行事です。今年は新型コロナ感染防止対策のため、玄関先で贈り物を渡すだけの取り組みになりました。贈り物は「菊の花束」と「竹あかり」。菊は春に老人会の方々に手伝っていただいて植えたものです。菊の栽培とそれを高齢者宅に届ける活動は、もう何十年も続く伝統行事です。今年はそのに加えて「竹あかり」を作りました。竹に穴を開け、そこに電灯を入れて明かりを灯します。花模様の光が幻想的でとてもきれいです。裏山から竹を切ってきたり、ドリルで穴を開けたりと、慣れない作業でしたが、工夫をしながら製作しました。高齢者の方々に笑顔で受け取ってもらえ、生徒達もうれしそうでした。

生徒の感想です。「渡すときに『ありがとお〜』『きれいじゃなあ』など褒めてくださってすごうれしかったです。あたたかい気持ちになりました。すごみなさんが楽しみにしてくださっていて、時間より早く待っていてくださっている方や、すごく笑顔になってくださっている方がいて、とても大切に思っていてくださっているんだろうなと思いました。地域の方々に支えてもらいながら真鍋中は成長しているので、この関係が終わることなく、続けていきたいです。恩返ししていけるような生活を送っていきたいです。」



「笑顔をありがとうございました」

校舎への愛着と誇りを胸に

1949年(昭和24年)の落成から71年間、風雨に耐えてきた校舎も老朽化が進み、強風で外壁の板が剥がれたり、窓枠が落ちてガラスが割れたり木材の傷みが激しく、中でもグラウンド側の柱の傾きが無視できない程度になっていることがわかりました。大型地震が発生した場合、倒壊の危険性も高いことから、生徒の通常使用は避けるべきと判断し、**小学校の空き教室を借りて授業を行うことになりました**。長い歴史と伝統のある趣深い校舎です。3年生の近藤祐真利さんは、3月に真鍋中学校1436人目の卒業生として旅立ちます。これまで多くの卒業生達の思い出が詰まった校舎で過ごせなくなることは残念でありませんが、校舎への愛着と誇りを同じ卒業生として大切に胸に刻んでくれることを望んでいます。なお、職員室、校長室は当面の間これまでの木造校舎1階を使用します。ご用の際は、そちらにおいてください。



表彰の記録 岡山県児童生徒絵画展地区審査 佳作：1年男子

岡山県児童生徒いじめ防止ポスター・標語 標語の部 入賞：1年男子

笠岡市木山捷平文学選奨 短歌の部 入選：1年男子 川柳の部 入選：3年女子

1月の主な予定 8日(金)3学期始業式、1・2年課題テスト、3年復習テスト

12日(火)1・2年課題テスト、3年復習テスト、給食費集金 13日(水)合同委員会 25日(月)全校朝礼、招待給食

28、29日(木、金)県内私立高校I期入試、29日(金)1・2年復習テスト